

長期・積立・分散投資の力を活用する

少子・高齢化が進む日本において、公的年金などに財政的な制約があるなか、勤労世帯の自助努力によって、安定的な資産形成を実現することが重要となります。そのために有効な資産形成の手法として、「長期投資、積立投資、分散投資」の3つが挙げられます。

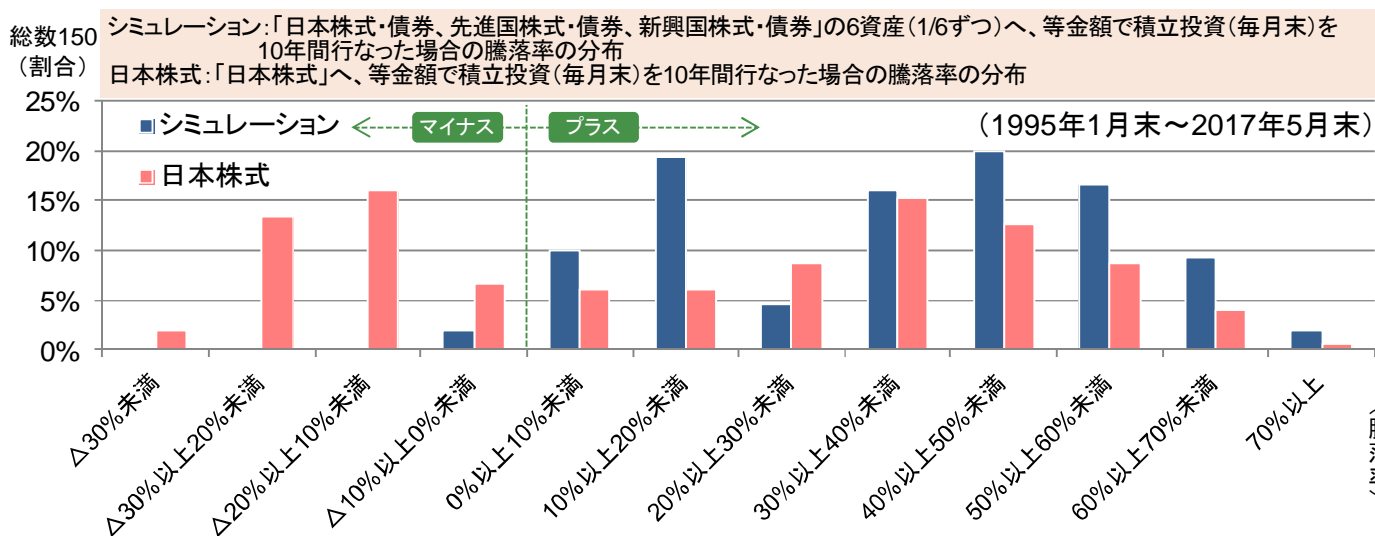
まず、「長期投資」について、資産運用の世界では収益を安定させるために、長期にわたる継続的な投資が有効とされています。一般に、金融市場で取引される資産がいつ上昇・下落するかを予測することは難しいうえ、資産価格は短期間で大きく変動することもあります。10～20年単位で投資することで、収益の安定化が期待できます。

次に、「積立投資」について、定期的に投資することによって投資タイミングを分散させることで、購入単価が均され、いわゆる「高値掴み」になりかねないリスクの軽減効果があります。また、決まったタイミングで投資を継続するため、金融市場の動向を予測して機動的に売買する必要はありません。

そして、「分散投資」について、様々な資産に資金を分けて投資することで、収益の安定化が期待できるほか、海外資産にも投資を行なうことで、世界経済の成長を享受できます。一般に、値動きの異なる資産に分散投資すると、各資産の値動きが打消しあうことによって、ポートフォリオ全体の値動きの安定化が期待できます。

これらの投資手法を組み合わせると、例えば、「日本株式・債券、先進国株式・債券、新興国株式・債券」の6資産へ毎月末に積立投資を10年間行なった場合の騰落率の分布をみると、同条件で日本株式にのみ投資した場合と比べて、プラスの騰落率になる割合が増えていることが分かります。長期・積立・分散投資を活用することで、確実に収益が得られるとまではいえないものの、長期的には安定的な収益獲得が期待されます。

積立投資(毎月末、等金額)を10年間行なった場合の騰落率の分布



(使用指数) 日本株式: TOPIX(配当込み)、日本債券: シティ日本国債インデックス(円ベース)、先進国株式: MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)、先進国債券: シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし、円ベース)、新興国株式: MSCI Emerging Market Index(配当込み、米ドルベース)、新興国債券: JPMorgan EMBI Global Diversified(米ドルベース)、米ドルベースの指数は日興アセットマネジメントが円換算

* 費用、税金などは考慮していません。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記はシミュレーションであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。